



発行 西原町役場
〒903-01 西原町字嘉手苅112番地
電話 (09894)-5-4533
印刷 刷 (協)丸正印刷

町の世帯・人口
(61年7月末現在)
世帯数 6,723世帯
人口 22,780人
男 11,723人
女 11,057人

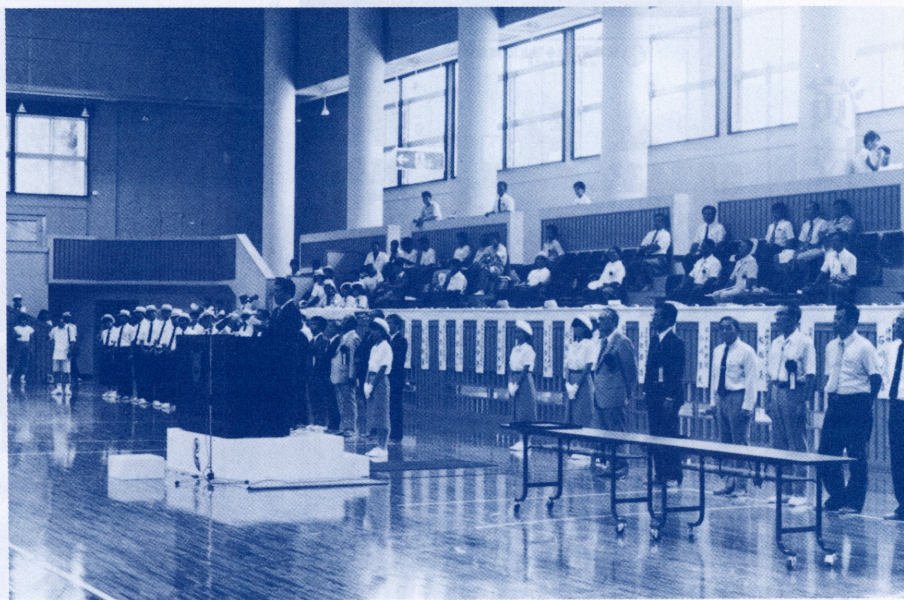
7月の人口移動
出生 34人 死亡 6人
転入 148人 転出 109人
婚姻 13件 離婚 3件

国体本番を想定して臨む

国体リハースル大会無事終了

全町民一致でスムーズに運営

第42回国民体育大会(海邦国体)が来年「きらめく太陽ひろがる友情」をスローガンに本県で開催されることになった。



国体リハースル大会を無事終了し歓送のあいさつを述べる平安町長(8月12日 町民体育館)

現在、全町民をあげて競技会場の施設整備や受け入れ体制に万全を期して取り組んでいるところであります。

このような中であって、去る八月九日より十二日までの四日間、町民体育館及び西原高校体育館(九日のみ)において、海邦国体バスケットボール競技、リハースル大会として第十六回女子全日本教員バスケットボール選手権大会を(財)全日本バスケットボール協会、全日本バスケットボール連盟、西原町、町教育委員会、第42回国民体育大会西原町実行委員会主催により開催された。

国体リハースル大会は、来年開かれる本国体成功に向けての大事な大会とあつて、開会式から閉会式までの四日間、国体本番を想定しての各部、各班、各係ごとに役員を配置して臨まれ、無事、成功裏に終了、来年の本番への足掛かりを確認した。

八月九日の開会式では、大会名誉会長である平安恒政町長をはじめ、日本バスケットボール協会副会長、県バスケットボール協会会長、県体育協会会長、顧問として県知事(代理)、県国体事務局長、親泊町議会議長、与那嶺町教育委員長、その他関係者の見守る中、西原中学校女子ブラカード嬢を先頭に、北は北海道から南は九州沖縄までの38チームの選手団が、西原中吹奏楽部の演奏で入場、会場を埋めた約七百名余の観衆の暖かい歓迎の拍手を受けた。

その後、開会宣言、国旗・協会旗、市町村旗掲揚、優勝杯返還、大会会長あいさつ、祝辞、歓迎のことば、県選手による選手宣誓、五回連続出場選手表彰などが行なわれ、子どもエイサーの集団演技により開会式を無事終了、四日間の競技日程に入った。

なお、歓迎のあいさつにおいて平安町長は、「緑豊かな文教のまち西原の全町民を代表して心より歓迎し、選手の

みなさんが日頃鍛えられた力と技を充分発揮され、素晴らしい成績を挙げる事を期待します。」と激励した。

競技は、四日間、順調に進められ、大会最終日の決勝戦(兵庫県対東京A)までスムーズに運営された。

競技結果は、兵庫県が接戦の末、57対47で東京Aチームを下し、昨年に続き連覇を達成した。なお今回初出場の沖縄県チームは一回戦の香川県チームを下しベスト16まで進出し健闘した。

なお、今回の国体リハースル大会は、各小学校児童により編成された町少年、少女合唱団をはじめ、西原中学校、西原高等学校の生徒や町青年会、町婦人会、町老人クラブ連合会、町体育協会等、各種団体の積極的な協力のもとに大会が運営され、文字どおり全町民あげての大会となり、参加各県チームの選手のみならず、わが町民の暖かい受け入れに感激していた。

今回の国体リハースル大会同様、来年開催される海邦国体に向けて、尚一層の町民のご理解とご協力を頂き、半世紀に一度しかない国体の成功に向けて邁進しましょう。

フット・アイ

西原町
62年海邦国体
きらめく太陽ひろがる友情
開催まで
410日
バスケットボール競技
(成年男子)



防犯警備に当る東部消防組合西原分団、四日間無事終了。



迅速かつ正確に事務処理する大会本部役員。



中・高校生は、競技補助員、会場設営等各分野で活躍。



ボーイ・カブスカウト隊西原第一団、会場周辺清掃に当る



町老人クラブ、一万個のサトウ天ぷらを作り協力。



町婦人会、四日間で百名以上を動員、湯茶接待は笑顔でおまかせ

国体リハースル大会は、四日間、町民各層の積極的な参加協力のもと成功裏に終了。協力下さった各協力機関、個人、団体の皆さん、来年もよろしくお願い申し上げます。



きらめく太陽 ひろがる友情 62年海邦国体を成功させよう

設立十周年を盛大に祝う

東部消防組合

去る八月五日、午後三時より、町中央公民館において、



副管理者として開会のあいさつを述べる
平安町長＝8月5日 町中央公民館にて

東部消防組合設立十周年記念式典が盛大に催された。

東部消防組合（管理者＝山城時正佐敷町長）は、昭和五十一年与那原、南風原、佐敷町の三町の防災と安全を願って設立し、その翌年の昭和五十二年三月より本町も加入、現在、四町の町民の生命と財産を守る重要な任務を遂行している。

設立十周年記念式典には、平安恒政町長（同組合副管理者）をはじめ、親泊輝武町議

会議長、宮平吉太郎町社会福祉協議会々長、沖繩県知事（代理）＝沖繩県消防協会長、稲福勝美東部消防組合協議会議長、金城義夫南風原町長（同組合副管理者）などのほか、消防職員および四町の消防団員、関係者およそ二百名が参加し賑った。

式典では、平安町長の開会のことば、感謝状贈呈、経過報告、式辞、祝辞などが行なわれた。

東部消防組合では、管内四

町における近年の都市化の進む状況で急激な人口の増化にともない事件、事故の多発が予想されることから地域防災の確立のため、訓練や学習を展開するとともに、地域住民への防災意識の高揚を図ることにしている。

なお、式典において、消防行政に対して、功績をあげたとして本町から次の方々が表彰された。

▽初代副管理者として

宮平吉太郎（昭和五十二年・昭和五十九年）

▽五代協議会議長として

稲福恭助（昭和五十七年・昭和五十九年）

▽歴代議員として

親泊輝武（昭和五十二年・昭和五十九年）

新川康之（昭和五十二年・昭和五十九年）

（敬称略）

演技・個人試合で見事優勝（全日本なぎなた錬成大会）

演技の部・五ブロック中三ブロックを制覇



昨年に続き優秀な成績を納めた西原中学校なぎなたクラブのメンバー＝8月14日、津嘉山寛喜校長はじめ関係者で町に凱旋報告（前列左平安町長）

全国の小・中学生を対象に基本錬成を主眼としたなぎなたの正しい普及ならびに心身の錬磨と相互の親睦を図り、将来を担う青少年の健全育成に資することを目的に、昭和六十一年度全日本少年武道（なぎなた）錬成大会が八月十日より、日本武道館（東京）で行なわれた。

西原中学校なぎなた部（津嘉山寛喜校長）では、潮平しま子、仲真敦子先生引率の下なぎなた部のメンバー十名が同大会に県代表として参加。

錬成大会は、演技の部と個人試合の部に分けて行なわれ演技の部では五ブロック中三

ブロックに見事優勝、個人試

合においても優勝と敢闘賞を

獲得するなど、全国的にも西

原中学校なぎなた部の健斗を

印象づけた。

なお、結果は次のとおり。

▼演技の部

（Aブロック）

優勝＝宮平・真栄城組

（Bブロック）

優勝＝屋比久・崎原組

（Cブロック）

優勝＝仲真・慶田組

準優勝＝与那城・當真組

▼個人試合

優勝＝屋比久夏子

敢闘賞＝真栄城綾子

宮平敦子

全国（西原東クラブ）・九州（西原クラブ）大会へ出場

小学生バレー

西原クラブは三位入賞

ライオンカップ全日本小学生バレーボール大会（東京）に沖縄県代表として出場する西原東クラブ（西野朗監督）の女子メンバーと第一回全九州小学生バレーボール大会に同じく県代表として出場する



全国大会出場を前に本町を訪れた西原東クラブのメンバー



九州大会出場を前に本町を訪れた西原クラブのメンバー

西原クラブ（中山博光監督）の男子メンバーが八月十三日に沖縄県代表として出場する西原東クラブ（西野朗監督）の女子メンバーとともに町を訪れ「町民の期待に添うよう練習の成果を充分発揮し、頑張りますので、応援して下さい。」

とあいさつをし大会に出発。両チームは、去る六月十五日に開かれたライオンカップ小学生バレーボール大会において、西原東クラブは優勝、西原クラブは準優勝を遂げて今回の大会へ出場することになり、大会に向け夏休み期間中も猛練習を続けていた。

結果は、女子の西原東クラブは予戦リーグは勝ち残り、決勝トーナメント一回戦で敗れた。

男子西原クラブは予戦リーグは完勝、決勝トーナメントの準決勝で大会優勝小浜チーム（長崎県）に二対一で敗れたものの見事に三位入賞を果たした。

町少年サッカーチーム三位



県サッカーまつりで3位入賞の西原少年サッカーのメンバー

去る七月二十六日より八月三日にかけて第二十回県サッカーまつりが開催され、西原町少年サッカーチーム（山城

正明監督）が参加しD組（少年の部）において見事三位入賞を遂げた。

同サッカーチームは、西原小学校（四年・六年生）の児童を中心に結成され三年目になるが、山城監督や父母の会の見守る中、西原小学校グラウンドで毎日練習を欠かさないサッカー好きの少年達である。今大会の三位入賞を喜び来年二月に開催される九州少年サッカー県予戦に向けて早くも猛練習をスタート。頑張れチビッ子サッカー少年チーム。

寄附金

字小那覇一五八番地の日本道路（沖繩営業所）（所長＝清水輝紀）より町社協へ五万五千四百八円。

香典返し

字与那城二九七番地の花城キヨさんより故夫、花城仙三さんの香典返しとして町社協へ五万円。

字我謝二四番地の宮平棋之助さんより故父、宮平牛さんの香典返しとして町社協へ一〇万円。

昭和61年度国民年金保険料(4・5・6・7・8月分)は早目に納付して下さい。

南米を視察して (1)

ペルー国

県人会活動の拠点づくり進む

新聞でも報導されている通り、去った七月にペルー沖縄県人移住八十周年、同県人会創立七十五周年、同県人会館落成五周年記念式典並びに、アルゼンチン沖縄県人連合会創立三十五周年記念式典等、その他南米移住国での一連の式典への出席、更に、南米移住地視察のため、西銘知事をはじめ、県議会代表団、市町村関係者、琉球舞踊団、その他関係者の一員として本町を

代表し、私と城間町議会副議長が、去った七月十三日から八月三日までの日程で南米（ペルー、ボリビア、アルゼンチン、ブラジル）を訪問してまいりました。

訪問した国々で、各式典への出席、各国移住地の視察を行い、県人移住者と久しく懇親し移住者の各分野での活躍ぶりを見聞し、更に移住者を激励すると共に南米と沖縄県の親善交流の絆をより強くする機会になったと思うし、又、南米四ヶ国の歴史、文化等に触れることができ有意義な旅行でありました。

それでは、各国に於ける移住者の様子等について短期間の日程で詳しい紹介はできないが概況について報告します。

一、ペルー共和国について
インカ文明の遺跡やスペイン植民地時代の史跡名所等で知られるペルーは、南米大陸太平洋岸に位置している。

海岸線近くをアンデス山脈が南北に走り、国土を山岳、海岸、森林地帯に分け、山岳地帯は海拔五千〜七千級の山々が一大高地を形成し、山間には広大な高原や湖が点在している。

海岸地帯は二千キロ以上に及ぶ帯状地帯で、河川区域以外は砂原であり、又、森林地帯はアンデス山脈の東部、特に東北部はペルーアマゾンと呼ばれる大森林帯を形成する。



二世の子ども達に囲まれて

の祭りが盛大に行なわれる。人種的には山岳地帯に住んでいるインディオをはじめ、海岸地帯にはスペイン、イタリア系を中心に日系人、多様な民族が住んでいる。

日本との関係では、日本が中南米で最初に国交を開いた国がペルーであり、以来、経済、文化のあらゆる面で伝統的友好関係が培われ、日本に対する信頼度も非常に高い好感をもっている。

ペルーはスペイン軍によって征服されて以来二百年余に及んでスペインの植民地が続き、一八二一年にサン・マルチン将軍がチリから侵入し独立宣言されている。

独立後は政治が安定せず、革命が続き、第二次世界大戦後も政局不安が続き、当時の軍部は何度クーデターを起し政権を握るが、一九七九年モラーレス政権は民政移管を約束し憲法を公布し、翌年、大統領選挙が行なわれ民政が誕生し、現在に至っている。

ペルーの国土面積は約百二十九万平方キロ（日本の約三・四倍）の広大な国である。人口は、約千八百万人で首都のリマ市に約五八〇万人居住し、人種構成は、インディオ約五〇％、混血三九％を中心に白人、東洋人で、日系人は約七万五千人でその七〇％を沖縄県人が占めている。

ペルーの言語は、ケチュア語であるが、スペインに征服されて以来スペイン語である。主要産業は、農業と鉱業で特に鉱物資源に恵まれ、銅、鉛、亜鉛、鉄鉱石、石油などの鉱産物が輸出の大半である。農業は、綿花、砂糖、コーヒー等を生産し漁業も盛んである。

通貨は、南米各国でインフレに悩まされているが、ペルーでも一九八六年一月一日をもつてデノミを行ない一チソーレス＝一インティ（INTI）

通貨は、南米各国でインフレに悩まされているが、ペルーでも一九八六年一月一日をもつてデノミを行ない一チソーレス＝一インティ（INTI）

二世時代に入り各分野で活躍

県人会長に町出身者が歴任

県人会創立七十五周年、県人会館落成五周年記念式典が七月十八日（金）、十九日（土）、二日間、盛大に行なわれ、初日はプール建設起工式、記念植樹祭、ペルー沖縄婦人会によるアトラクション、移住先没者慰霊祭、県派遣琉球舞踊団の公演、歓迎レセプション等が催されにぎわった。

二日目は、記念式典が挙行され、移民功労者の表彰の後、ペルー沖縄県人会長（祝典委員長）、ペルー沖縄婦人会長

現在、一ドル＝十三・九十ハント（公定）である。日本からペルーへの移民は明治三十二年（一八九九年）に第一回移民七百九十人がサトウキビ耕地の契約移民として上陸し、ペルー移民史が始まる。

沖縄からの移民は、明治三十九年（一九〇六年）の第三回契約移民で三十六人の県人移民が始まり、次々とペルー移民は盛んになり、八十年を迎えた今日、県人移住者は約五万人に達する大勢力を誇っている。しかし、先駆者は、重労働と低賃金、更に風土病に苦しめられ、言葉も分からない地球の裏側の異国の地で過酷な苦しい歴史だったと思われる。又、県人移住者は、連帯意識と相互扶助の精神が強く、その一つとして模合が

ペルーでの公式日程であるペルー沖縄県人会移住八十周年

二世代表、沖縄県知事、県議会議員、沖縄県市町村長代表駐ペルー特命全権大使等の祝辞が次々と述べられ、式典終了後、芸能大会が開かれ、ペルー各市町村人会単位に古典音楽、琉球舞踊を中心とした次々と熱演により披露され集った一、四〇〇名余の観衆から大きな拍手と指笛をあげた。

最後に歓迎交流パーティーが催され、参加者はグラスを片手にサル（乾杯）を交し

非常に盛んで、親戚、友人、知人、同郷など地縁、血縁を中心とする関係で成り立っており、独特な共同体的沖縄社会の美徳みたいなものとして根づいている。

ペルーでの県人社会も、二世、三世の時代を迎え、二世達の活躍は目覚しく、実業界、政治、医師、弁護士、教師、公務員等、あらゆる分野に進出している。

県人会も活発で、五年前の移住七十五周年記念事業としてリマ市の郊外に県人会館とサッカー場を整備され、県出身者の親睦と交流の場として活用されている。又、八十周年記念事業としてプール建設が計画され県人会活動の拠点が次々と整備計画されている。

ペルーでの西原町出身者の様子ですが、最初の移住は、明治四十年（一九〇七年）、県人移民の始まった翌年、わずか二人の先駆者で始まり、次々と移住者も増え、現在では、二世、三世を含め約二、五〇〇人に達し、県人の中でも有力な位置を占めている。

一世は年々減少し、二世、

昭和61年度国民健康保険料第1期、第2期、第3期分は9月30日までに納付して下さい。

当せん金支払期間 昭和61年9月24日〜昭和62年9月23日



パールでも婦人達の社会進出もめざましい
＝7月19日嘉手苅会長(中央)、平安町長、城間町議会議長を囲み

三世の時代に入り、首都リマ市を中心に各地で安定した生活を含み、職業も医師、大学教授、弁護士、薬剤師、会計士、建築士、銀行員、看護婦など多士済々で、自営業では飲食店、焼鳥店、豆腐製造業、パン製造業、雑貨店、農業等を手広く経営し、それぞれ生活の安定向上を図り、ペルー国経済、教育文化等あらゆる分野に進出し活躍している様子に触れ、実に力強く誇りを感じた次第であります。

又、町人者相互の親睦と団結連帯を深めるため町人会組織の活動も活発で、町出身者の大先輩の与那城鍋氏(我謝)が村人会設立の必要性を提案され、玉那覇樽氏、糸数幸慎氏の両氏がチャンカイ郡エスキベル耕地の宮平光輝氏を訪ね、リマ市に於いて在ペルー西原村人会設立について相談会長に与那城鍋氏、副会長に玉那覇樽氏、幹事長に宮平光輝氏、会計に糸数幸慎氏、その他幹事を内定し村出身者多数の出席のもと総会を開催し、全会一致で役員が承認され、大正八年(一九一九年)九月に在ペルー西原村人会が設立されている。当時は、チャンカイ郡も一緒に発足したが、遠方なる故、チャンカイ郡は分立し、西原共同会と称し、リマ市に於いては、西原村人同志会に改称され昭和十六年十二月まで続いたが、第二次世界大戦のため中止となり、終戦後、村人間に於いて復活の声が高く、宮平光輝氏らが昭和二十八年(一九五三年)二月に小橋川栄助氏宅に於いて復活委員会を開き、在ペルー西原村人会の復活を決定、初代会長に奥浜真興氏、副会長小橋川栄助氏、幹事長小橋川吉次郎氏、会計小波津太郎氏、監査役崎原盛重氏の役員が推薦され円満に再建される。現在は、西原町の町制移行に伴い在ペルー西原町人会とし会長も二世にバトンタッチされ、城間カルロス氏(医師)で信望厚く期待されている。又、南米においても、男女同権が叫ばれ、婦人の社会への進出も著しくなっている。

最後に、町人会からの要望として、町費留学生(研修生を含む)について、国際化の時代を迎え、検討し、実施して欲しいとの強い要請があり町としても前向きに検討すべきだと思ふ。

町出身者、特に先駆者である一世代の方々より親戚を始め、部落民の皆さんに宜しくとの事でございましたので紙面を借りて申し添えます。以上で、ペルー国を訪問したの難感を報告します。

更に、一九六四年には青年部も設立され、次代の担い手としてペルーも二世時代に切り活発な活動をしている。

尚、町出身者の中から県人会々長として戦前、宮平光輝氏(池田)、戦後は、奥浜真興氏(仲伊保)、小橋川栄徳氏(与那城)、現会長嘉手苅良信氏(嘉手苅)、が活躍なされている。又、婦人においても、ペルー沖繩婦人会長として嘉手苅信子氏(嘉手苅)、知念富美氏(我謝)、ペルー日本婦人会長として小波津己美子氏(小波津)が歴任され活躍なされている。

体力づくりで学力向上を

十三区学推協

八月十七日(日)、午前十時より、西原小学校体育館において十三区学推協(宮平昌信会長)主催による球技大会及び学事奨励会が行なわれ小中学生、父母、老人の皆さん約百名余の区民が参加し賑わった。

同区学推協では、球技大会を通して児童・生徒、地域民が融和をはかり、体力づくり、児童・生徒の基礎学力の向上を目指し、子供達を激励していくという目的で実施したもので、チラシ、ポスターおよび、前日と当日の広報車による呼びかけを行った。



お母さん方も輪投げゲームにいどむ
＝8月17日(日)西原小体育館

球技大会は、幼児による輪くぐりをはじめ、バスケットボール、親子でのドッチボールや紅白に分かれての玉入れ老人参加による男女別輪投げ大会などをにぎやかに行った。

更に、学事奨励会では、十二区事務担任者による児童・生徒への激励のこたばに続き学事報告、小学生にエンピツとノートを記念に贈呈。

なお、お昼時間には、おにぎり弁当により、親子のふれあい、区民の融和が深められ一日を楽しく過ごした。

冠婚葬祭用袋を販売

町婦人会が生活改善推進

見栄や無駄を省き合理的で無理・無駄のない生活改善を実践しようと、町婦人会(玉那覇恭子会長)では、生活部を中心に、各支部巡回懇談の中で確認した生活改善推進協議会としての袋(祝儀袋等)を作成、販売を行っている。

と裏にスタンプ印刷をしたもので一〇枚一組で五〇円(市価の半額)で販売する。

町婦人会では、一人一人生活改善を自覚し、実践していくことを全町民に呼びかけている。

尚、注文は、各支部婦人会の正副会長さんへ希望枚数と現金を添えて申し込んで下さる。

10月15日に開設

秋の巡回行政相談所

「行政相談」は役所の仕事に関する苦情や要望、意見等を受け、その解決を促進するとともに、皆さんの声を行政に役立てるものです。

▼相談内容

道路・河川、年金・保険、登記、税金、交通安全、郵便・電話、農地、社会福祉、消費者保護など

総務庁では、この行政相談制度を広く国民の皆様に利用していただくため、十月十二日(日)・十八日(土)まで、秋の行政相談週間と定めています。

本町では、十月十五日(水)午前十時～午後四時、町役場二階会議室で巡回行政相談所が開設されますので、どうぞお気軽に御相談ください。

また、沖繩行政監察事務所では、行政苦情一一〇番(電話〇九八八六七一〇〇)を設置していますので、お気軽に御利用ください。

10月1日現在で実施

61年商業統計調査(飲食店)及び商業実態基本調査

及び商業実態基本調査

この調査は、統計法に基づく指定統計調査として我が国の商店の分布状況や販売活動の実態及び商品の全国的な流通状況などを明らかにするために実施します。

飲食店調査は、全国の飲食店を営んでいるすべての商店を調査対象とします。

また、商業実態基本調査は全国の卸売業及び小売業を営む通商産業大臣が指定する企業を調査の対象とします。

都道府県知事から任命された商業統計調査員及び商業実態基本調査員が商店を直接訪問し、調査票に記入していただき回収する方法で行います。

調査票は統計法により厳重に秘密が守られますので、正確な報告に御協力ください。

問い合わせ先
通商産業大臣官房調査統計部商業統計課
電話 〇三三・五〇一・一五二(通商産業省)

「平和を考える町民の集い」 9月28日(日)午後5時 町中央公民館
映画「未来への証言」 上映

固定資産税制度のあらまし

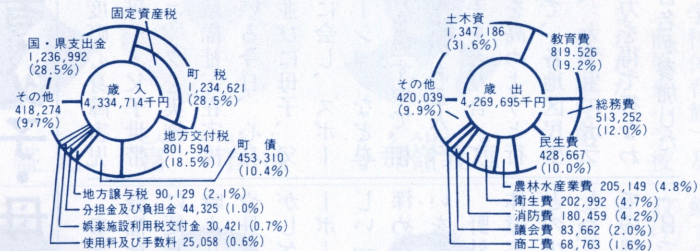
はじめに

税金は、私たちが健康で文化的な社会を築く、ためになくてはならないものです。したがって、税金を納めることは自らの日常生活に帰ってくることであります。納税の義務は憲法で定められているように、私たちが社会生活を営む上で守らなければならないもっとも基本的なルールであります。それだけに私たちは、税の果たす役割やそのしくみについて正しく理解することは大切なことなのです。このようなことから、町税を正しく理解するための一助として今回から固定資産税を皮切りに町税全般について「できるだけわかり易い内容」を基本に連載方式で掲載させていただきたいと思ひます。しかし、転載が中心とならざるを得ない為、企画、構成その他で不十分な面が多々あると思ひますが御諒解下されば幸ひと思ひます。

1. 町財政と固定資産税

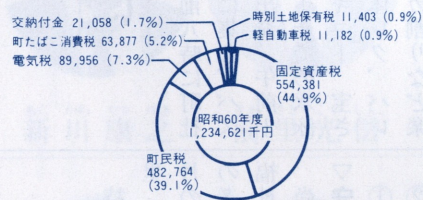
町が仕事を行うためのお金の収支を財政といい、収入を歳入、支出を歳出とよびます。歳入には、わたくしたちが町に納める町民税のほか、国や都道府県から町の行う仕事に対して出される国・県支出金、どの市町村もひとしい水準の仕事ができるよう国税の一部が配分される地方交付税、借入金である地方債などがあります。

60年度 歳入歳出の状況(単位: 千円)

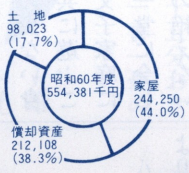


※この表は、昭和60年度の西原町決算総額です。

●町税収入の税目別の割合(単位: 千円)



●固定資産税の収入状況(単位: 千円)



2. 固定資産税とは

固定資産税は、毎年1月1日(「賦課期日」といいます。)現在で、土地、家屋、償却資産(これらを総称して「固定資産」といいます。)を所有している人がその固定資産の価格をもとに算定される税額をその固定資産の所在する市町村に納める税金です。

(1) 固定資産税を納める人(納税義務者)

固定資産税を納める人は、原則として固定資産の所有者です。具体的には、次のとおりです。

土地	土地登記簿又は土地補充課税台帳に所有者として登記又は登録されている人
家屋	建物登記簿又は家屋補充課税台帳に所有者として登記又は登録されている人
償却資産	償却資産課税台帳に所有者として登録されている人

ただし、所有者として登記(登録)されている人が賦課期日前に死亡している場合等には賦課期日現在で、その土地、家屋を現に所有している人が納税義務者となります。

(2) 固定資産税の対象となる資産

土地、家屋及び償却資産が固定資産税の対象となります。

●償却資産とは●

会社や個人で工場や商店などを経営しておられる方が、その事業のために用いることができる機械・器具・備品等をいいます。その内容を例示しますと、①構築物(煙突、鉄塔、岸壁など)②機械及び装置(旋盤、ポンプ、動力配線設備、大型特殊自動車など)③船舶、航空機④工具、器具、備品(測定工具、切削工具、機、いす、ロッカーなど)などの事業用資産です。したがって、例えば、ミシンを

家庭用として使用している場合には、課税対象となりませんが、事業用として使用している場合は償却資産として課税の対象となります。また、耐用年数1年未満の償却資産又は取得価額10万円未満の償却資産は、原則として課税対象となりません。なお、自動車、原動機付自転車のように自動車税、軽自動車税の課税対象となるものは、償却資産の範囲から除かれます。

※次回は税額算定のあらましについて掲載します。

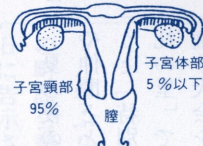
健康アドバイス — 女性のガン —

早期発見で明るい家庭を！

「子宮ガン」

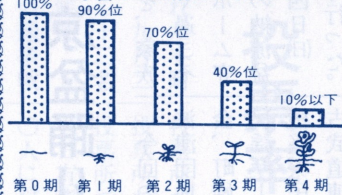
婦人ガンの約3割を占めているのが子宮ガンで死亡者は年々減少しつつありますが、かかる人が減少しているわけではなく、早期発見の技術と治療面での手術や放射線療法がめざましく進歩したおかげです。

●子宮ガンの発生場所



子宮ガンは早いうちに発見すれば、100%治るが、無関心・恐れ・はずかしさが手おくれとなります。

＜子宮ガンの治るわりあい＞

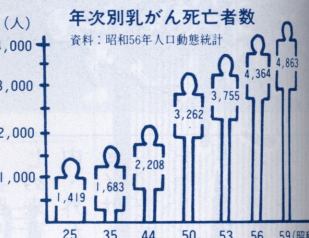


●西原町の検診結果

年度	受診数	ガンであった者	ガン以外の病気
S 58年	395人	0	14
S 59年	408人	0	39
S 60年	425人	1	0

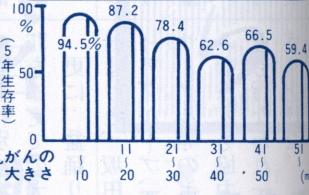
「乳ガン」

増加傾向をたどる日本人の乳ガン死亡数。



乳ガンは自分で気をつければごくわかりやすい症状、つまり乳房の中に小さく堅い、痛みのないしこりが特徴で90%以上は自分で発見されています。毎月生理が終わった日の入浴時、閉経した人は毎月一日とか覚えやすい日を決めて、しこりができてないか、分泌物がないか調べます。

しこりが小さければ小さいほどなりやす



このように早期発見、早期治療によって多くの尊い生命が救われております。町では婦人ガン検診を九月に行いますので、ぜひ受けられるよう、お願いします。自分の健康は自らの努力で守ることが第一です。ぜひ積極的に検診を受けるようにしましょう。

61心身障害児巡回就学相談

10月7日与那原町福祉センター

一、趣旨

心身障害児に係る就学指導を適正かつ円滑に推進するため、保護者を対象として早期から就学相談を行なうことが必要であるので、本事業を実施し、もっと心身障害児に係る適正就学の徹底を図る。

二、主催

沖縄県立教育センター

三、対象

就学前幼児の保護者及び幼児

四、事業内容

(一) 心身障害児の保護者に対しての就学相談の害害
(二) 事業の周知徹底を図る

五、相談委員

本県の心身障害児適正就学指導委員会の委員を中心に、教育、心理学、医療等の専門家の先生方で構成。

六、実施方法

期日 10月7日(火)午前10時
場所 与那原町社会福祉センター

七、経費

無料

※詳しいことについては、町教育委員会へお問い合わせ下さい。
電話 513655

10月1日より浄化槽法施行

保守点検と清掃を義務化

今、私達の生活環境は、水汚染、地盤沈下、スモッグや騒音など、いろいろな公害に悩まされていますが、中には人間の努力で防ぐ事のできる公害もあります。

昭和五十八年五月に公布された浄化槽法が昭和六十年十月一日から施工され、設置者並びに工事業者等の責任が明確にされ、義務が強化されました。

この浄化槽法は、浄化槽を正しく効果的に使用するため

一、浄化槽設置者(使用者)に次の義務を定めております。
一、浄化槽を設置したら、知事に届け出なければならぬ。
二、保守点検及び清掃をしなければならぬ。
三、年一回の法定検査が義務づけられています。
※私たちのすばらしい海を汚染から守るためにも、ぜひ心がけたいものです。

国際的視野を広めよう

10月25日 国際親善青年の集い

一、目的

世界の国々は、近年の交通通信網の発達により、地球上のあらゆる地域までゆきわたる、国家間のみならず地域、団体、個人等の国際的交流が高まってまいります。特に、沖縄は、古くから海外と交流を深め独特な文化を築きあげてきました。

二、期日

昭和六十一年十月二十五日(土)、午後三時より

三、場所

西原町中央公民館

四、主催

西原町

五、後援

町教育委員会、町青年会

六、対象

県内大学に在学する留学生国際センター外国研修生

七、親善内容

(一)親善スポーツ大会
(二)意見交換会(懇親会等)
※内容は、都合により変更される事もあります。

サマージャンボ宝くじ(市町村振興宝くじ)

当せん金支払期間 昭和61年9月24日～昭和62年9月23日

合同ピクニックで心のふれあい

身障者・父子・母子共に

町社会福祉協議会（宮平吉太郎会長）では、八月十四日宜野座村漢那ビーチにおいて



母なる海に全員がすっぱり＝8月14日漢那ビーチ

昭和六十一年度町心身障害児者世帯並びに母子・父子世帯合同激励ピクニックを実施。これは、地域福祉、在宅福祉が叫ばれている今日、心身障害児者世帯並びに母子、父子世帯が一堂に会し、スポーツやレクリエーションなどを通し楽しい一日を過ごす中で、相互理解を深め障害のある人も、ない人も共に手を取り合って心のふれ合いを高めようと行なわれたもので、各地区民生委員や高校生、大学生のボランティアの協力を得て行なわれ、およそ二百名が参加した。

参加者は、午前八時に町社会福祉センターに集合、バスに便乗し本町を出発。午前十時より、漢那ビーチでの水泳や昼食のバーベキュー、宝さがしゲーム、団体レク、バレーボール、スイカ割りなど楽しい一日を過ごし、相互理解を深めながら、心と心のふれあいを高めた。

野外に出る機会の少ない身体障害者や親子で共に遊ぶことの少ない母子、父子家庭にとって大勢の人が一堂に会しての催しに、笑顔の絶えない一日でした。

夏の夜を楽しく満喫

守礼の里納涼盆踊り大会

子ども達のエイサー出演等でにぎわった守礼の里盆踊り大会



夏の夜のひとときを、家族や仲間とともに楽しく過ごす「特別養護老人ホーム守礼の里」では、恒例の納涼盆踊り大会を八月二十四日(日)、午後七時より同園内で行った。盆踊り大会は、平安町長はじめ来賓多数参加のもと、町内・外から五百名余が参加、エイサーや盆踊り、民謡ショー、空手演武、花火大会、カチャーシーなどが次々に催され、施設のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒になっての楽しい夏のひとときを満喫した。

今回の盆踊り大会には、小波津団地子ども会や内間青年会、町婦人会、町老人クラブ民謡サークルをはじめ、仲宗根盛次民謡グループ、金沖繩古武道連盟フランス支部などの友愛特別出演などがあり、花を添えての大会となった。

更に、盆踊り大会を成功させようと、坂田婦人ボランティアグループ、町社交ダンスサークル等のボランティアのみなさんも協力し、バザーなども行なわれ一段と盆踊りを盛り上げた。

パネル展や各種事業を計画

特別養護老人ホーム守礼の里（神山茂市所長）では、九月の敬老週間にちなんで各種の老人福祉事業を計画、地域福祉推進を図っている。

尚、主な事業は次の通り。

▽守礼の里パネル展

①老人ホームの説明
②写真展（ホーム生活紹介）
③県内老人ホーム配置状況

▽地域福祉開発推進事業

①入浴サービス（毎火・金）
②給食サービス③訪問介護指導④福祉電話相談⑤ミニデイスーパー

※町社協、民協、町福祉課保健衛生課等と協力する。

◎地域住民が老人福祉問題について、理解を深める機会となることを期待します。

十五区チーム優勝

町体協ボーリング大会

八月三日（日）、午後一時より、町体育協会（平安恒政会長）では宜野湾ボーリング会場において昭和六十一年度各区対抗ボーリング大会を実施した。大会には9チームが参加、チーム編成（男3名、女子2名）の一人三ゲームの合計得点により試合が行なわれ

結果は次のとおりとなった。

▽団体

優勝＝十五区（二二四四点）
準優勝＝二区（二〇七五点）
三位＝十八区（一九四二点）

▽個人

男子＝宮城一雄（六〇〇点）
女子＝松永敬子（四二二点）

シングル・ダブルスに熱戦

町体協テニス選手権大会

町体育協会（平安恒政会長）では、去る八月三日（日）、午前九時より、町中央公民館と金秀テニスコートにおいて、第六回町夏季テニス選手権大会を開催した。

大会は、男女シングルス及びダブルスの種目でトーナメント方式により行なわれた。

男子シングルス17名、ダブルス9チーム、女子シングルス15名、ダブルス9チームが参加し熱戦を展開した。

▽男子シングルス

優勝＝久米保源
準優勝＝泉明光

▽男子ダブルス

優勝＝泉・伊舎堂組
準優勝＝田本・久米組

▽女子シングルス

優勝＝新川綾乃
準優勝＝花城美智子

▽女子ダブルス

優勝＝新川・花城組
準優勝＝宮平・久高組

笑顔いっぱい感激

商工会婦人部が友愛訪問

町商工会婦人部（部長＝我謝豊子）では、去る八月七日午後三時より、特別養護老人ホーム守礼の里（小那覇在）を友愛訪問。

同婦人部では、福祉問題を



寸劇でおじいちゃんおばあちゃんもニコリ

取り上げる中で、今日的課題となっている高齢化社会の到来にともなう老人福祉の問題を考え、福祉の輪を広げようというのが目的で、今回の友愛訪問には婦人部会員四十八名と青年部、および上江洲民謡研究所の協力を得て、琉舞寸劇、カチャーシー等、十五のプログラムを披露した。

守礼の里では、一〇二才のおばあちゃんをはじめとおよそ七十名のおじいちゃんおばあちゃん達が、「チユウヤ イッペー」ヌチイグスイナ ティ ニイフェーデール」と琉舞や寸劇に笑顔いっぱい拍手を送っていた。

四区Aチームが優勝

第五回西老連ゲートボール大会

町老人クラブ連合会（呉屋幸夫会長）主催の第五回ゲートボール大会が、八月二十五日午前九時より坂田小学校グラウンドにて

ラウンドにおいて開かれた。会場には、呉屋会長をはじめ各区の老人クラブで編成された十九チームの会員など約百五十人が参加、時おり小雨の降る中を、ゲームに応援に熱気をあげていた。

試合は、三コートに分かれての子戦リーグのあと、決勝トーナメントが行なわれ、決勝戦において4区Aチームが優勝に輝いた。

なお、結果は次のとおり

▽優勝＝四区A（17点）
▽準優勝＝十区B（6点）
▽三位＝十二区



第5回西老連ゲートボール大会＝8月25日坂田小グラウンドにて

第8回町陸上競技大会 { 9月20日(土) 午後2時 西原東小学校
9月21日(日) 午前9時 西原中学校